

## 東海地方の天候（令和7年5月）

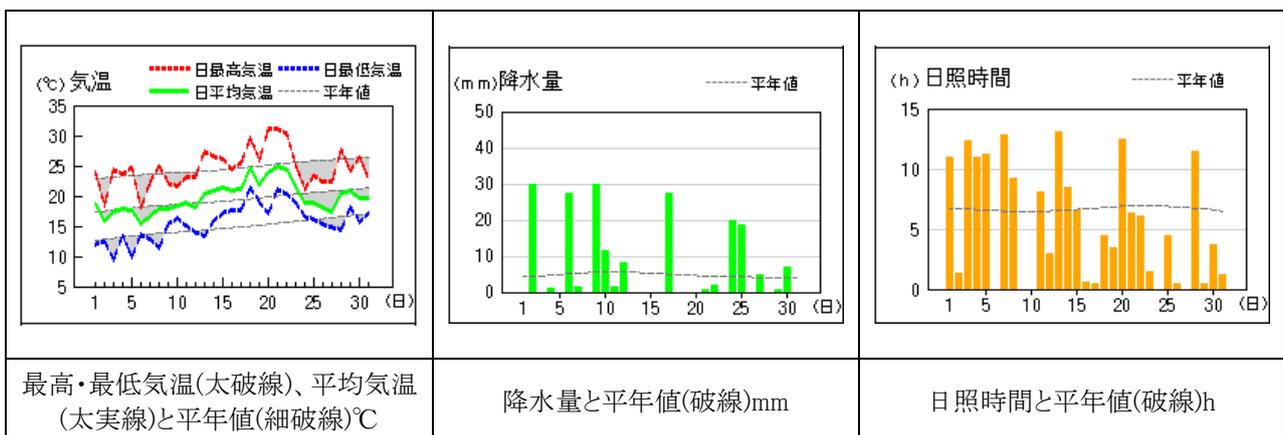
### 1 概況

低気圧や前線の影響を受けやすかったため曇りや雨の日が多くなり、大雨となった日もありました。このため、月降水量はかなり多くなり、月間日照時間はかなり少くなりました。また、上旬や下旬の終わりに寒気の影響を受けた日もありましたが、中旬から下旬のはじめを中心に暖かい空気に覆われて真夏日が続いた時期があったため、月平均気温は高くなりました。

月平均気温は「高い」、月降水量は「かなり多い」、月間日照時間は「かなり少ない」となりました。

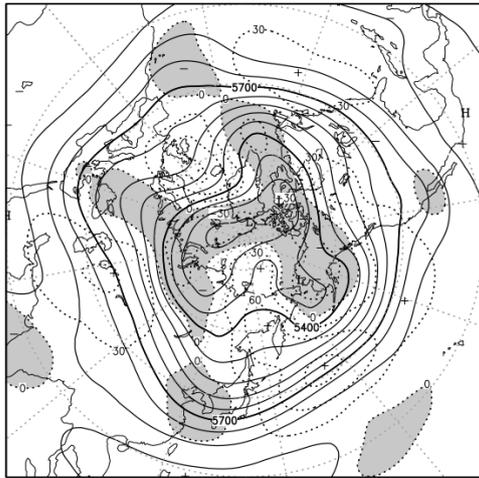
旬ごとの概況	
上旬	<p>天気は数日の周期で変化しました。2日には低気圧が発達しながら通過したため大雨となった所がありました。このため、旬降水量はかなり多くなりました。また、寒気の影響を受けた日があったため旬平均気温は低くなりました。</p> <p>旬の平均気温は「低い」、降水量は「かなり多い」、日照時間は「平年並」となりました。</p>
中旬	<p>天気は数日の周期で変化しましたが、湿った空気や前線などの影響を受けやすくなりました。広い範囲でまとまった雨が降った日は少なかった一方、曇りの日が多くなったため、旬間日照時間は少くなりました。また、暖かい空気に覆われやすかったため旬平均気温はかなり高く、平年差+1.8℃と1946年の統計開始以降、5月中旬として1位の高温となりました。</p> <p>旬の平均気温は「かなり高い」、降水量は「平年並」、日照時間は「少ない」となりました。</p>
下旬	<p>低気圧や前線の影響を受けやすく、曇りや雨の日が多くなりました。特に24日から25日に本州付近を通過した低気圧の影響でまとまった雨となり、大雨となった所がありました。このため、旬降水量は多く、旬間日照時間はかなり少くなりました。</p> <p>旬の平均気温は「平年並」、降水量は「多い」、日照時間は「かなり少ない」となりました。</p>

### 参考 時系列図（名古屋地方気象台）



## 2 大気の流れの特徴

5月の500hPa天気図（高度・偏差）と解説



等値線間隔 実況（実線）60m、偏差（破線）30m  
陰影域は負偏差

500hPa高度では、日本付近から東海上にかけて正偏差に覆われました。一方、中国東北区から東シナ海付近は負偏差で気圧の谷となり、亜熱帯ジェット気流は東シナ海付近で南に蛇行して流れ、日本付近では西南西の流れが強まりました。

これらに対応して、日本の東で太平洋高気圧が強かった一方、梅雨前線が九州南部から本州付近で停滞した時期もありました。また、北日本を中心に日本付近には暖かく湿った空気が流れ込みやすくなりました。

## 3 各地の気象台・特別地域気象観測所の実況

地点名	平均気温(平年差)		階級	降水量(平年比)		階級	降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比)		階級
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
静岡	20.0	(+0.8)	+	313.5	(146)	+	16	147.8	(77)	-*
浜松	19.5	(+0.2)	○	309.0	(161)	+*	18	142.4	(69)	-*
御前崎	18.9	(+0.3)	○	352.0	(165)	+*	15	141.4	(70)	-*
三島	19.6	(+0.6)	+	239.0	(151)	+	13	133.5	(72)	-*
石廊崎	18.7	(+0.3)	○	314.5	(178)	+*	16	136.1	(69)	-*
網代	18.9	(+0.4)	○	334.0	(194)	+*	12	143.4	(78)	-
名古屋	19.7	(+0.3)	○	192.0	(128)	+	14	164.9	(80)	-
伊良湖	19.0	(+0.2)	○	297.5	(182)	+*	18	140.5	(69)	-*
岐阜	19.8	(+0.4)	+	255.0	(132)	+	13	170.6	(83)	-
高山	16.4	(+0.8)	+	145.0	(116)	+	13	169.2	(89)	-
津	19.1	(+0.1)	○	330.5	(198)	+*	15	147.5	(75)	-*
上野	18.3	(+0.4)	+	180.0	(129)	+	13	147.5	(80)	-
尾鷲	19.1	(+0.4)	+	545.5	(151)	+	16	139.0	(76)	-
四日市	18.4	(+0.4)	+	339.0	(179)	+*	13	158.0	(81)	-
東海地方	----	(+0.4)	+	-----	(158)	+*	---	-----	(76)	-*

注) 1. 平年値は1991～2020年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

+:高い(多い)    ○:平年並    -:低い(少ない)

各階級の区分値は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。また、値が1991～2020年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には以下のように表現できる。

かなり高い(多い)    かなり低い(少ない)

3. 値の横に「)」や「]」がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のもと同様に扱うことができる。]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

#### 4 令和7年（2025年）5月の順位更新表

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm（西暦年）	開始年	平年値 mm
3	四日市	339.0	179	406.0（1998）	1967	189.3

月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h（西暦年）	開始年	平年値 h
3	石廊崎	136.1	69	55.0（1963）	1940	198.4

#### 参考資料 平年並の範囲（東海地方）

5月	平均気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
上旬	+0.1 ~ +0.4℃	53 ~ 131%	90 ~ 107%
中旬	-0.5 ~ +0.6℃	62 ~ 116%	99 ~ 117%
下旬	-0.4 ~ +0.5℃	57 ~ 125%	94 ~ 112%
月	-0.3 ~ +0.3℃	82 ~ 105%	94 ~ 107%

#### 資料の解説

- ・当資料に掲載されている天候の特徴や統計値は、現時点で得られている資料を取りまとめた速報です。
- ・「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の階級は、1991～2020年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる（各階級が10個ずつになる）ように決めています。また、値が1991～2020年の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い（少ない）」「かなり高い（多い）」と表現します。